

## 第 39 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】（ 風の子クラブ ） 【名前】（ 川原郁美 ）【立場】（ 保護者 or 指導員）

①午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第（ 9 ）分科会 名称（ 学童保育の生活（人間力の育て方） ）

※午前の全体会のみに参加した場合は、全体会講演の名称をお書きください。

②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

全体会の土佐いく子さんの記念講演は、現代の子どもの生活環境にそくした子どもの姿と子どもたちの成長、子どもたちのかかえる問題などを実体験も交えながら深刻に、でも明るくお話ししてくださり、興味深く拝聴させていただきました。資料にあった子どもの作文は、子どもの言葉で書かれているのでそこまで重くは聞こえませんが、大人として、子どもを見守る立場として、真摯に読んで、子どもの本当の気持ちを受け止める材料にするべきものだと思います。いわゆる困った子どもがいたら、それは子どもが「SOS」を発信していると捉えて向き合うことが必要だし、子ども同士でトラブルが起きたときには、大人が子どもと子どもを呼んで「はい、どっちが悪い。謝りなさい、ごめんなさいしなさい」で終わらせることなく、どうしてトラブルになってしまったのかを子どもと考えて、どうすればよかったのか、どうやって解決するのかを教えていくことが大切だと思います。大人目線ではなく、子ども目線でお話しされる土佐さんに引き込まれる講演でした。

分科会では、「人間力の育て方」を受講しました。興味をもって選んだ分科会でしたが、いざ受講するとなったとき、「もしかしたらすごく壮大な難しいテーマを選んでしまったのでは？」とすこし不安でした。でも、講師の先生は学童保育に合わせた切り口からお話ししてくださったので、わかりやすく、楽しく受講することができました。

印象に残ったのは、「学童保育でのびのびと育てている子とは？→楽しんでみんなともひとりでも遊べる力が育てている子」「小さいときにいろいろな経験をした子どもほど、成人したときに自己肯定感や自尊心が高まる」「競争的自己肯定感は、競争に勝ち他人より優れていることで満たされるもろい自己肯定感で、子どもに育みたいのは、子どもの居場所感となる、共感的自己肯定感である」の3つです。とくに、「共感的自己肯定感＝他者に支えられ、理解され、自分のことを肯定できる気持ち」は、現場で子どもたちに育てていこうと思いました。自分のことを全面的に肯定して好きになるというのは、ものすごく難しいことだと思うし、できる人の方が少ないと私は思っています。でも、それができるに越したことはないし、どんな自分でも認められる気持ちはもてるといいなとも思います。そのために、やっぱり“子どもを真ん中”に、一人ひとりを大切にして自分ではなかなかできない「自分を認めて受け入れて、肯定する。ありのままの自分を大切にする」ということ

を、大人の私たちが寄り添って、「そのままのあなたでいいよ、大切な存在なんだよ」と伝えていきたいと思います。この積み重ねで、子どもたち自身が自分のことを肯定していけるようになってくれたらなと思います。

※このレポートは、参加されたすべての保護者と指導員にご提出をお願いしています。

※文字数の制限はありません。この用紙に手書きでもかまいませんし、データでお送りいただいてもかまいません。

※×切は3/20（月）です。指導員に手渡し、または、このアドレス [okazakigakudou@yahoo.co.jp](mailto:okazakigakudou@yahoo.co.jp) にお送りください。

※ご提出されたレポートは、当会のホームページや岡崎がくどうの会だより「よりどころ」に掲載する予定です。